群馬大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

群馬県内を中心に関東地方などに 20 以上の関連病院といくつかの大学病院との密接なコネクションを保持、それぞれの病院が先端医療を担い、特徴を活かした医療を行っている。総合的な麻酔技術はもちろん、心臓麻酔、小児麻酔、小児心臓麻酔、移植麻酔、肺手術麻酔といった専門性の高い麻酔技術の習得が自然に、円滑にできることを約束する。多様性に富んだ臨床経験を積むことが容易で、システマティックなサポートを専攻医に提供することが可能である。

専門研修基幹施設である群馬大学、専門研修連携施設である高崎総合医療センター、桐生厚生総合病院、群馬県立心臓血管センター、群馬県立小児医療センター、群馬中央病院、群馬県立がんセンター、館林厚生病院、公立富岡総合病院、公立藤岡総合病院、足利赤十字病院、日本赤十字社医療センター、埼玉県立循環器・呼吸器病センター、渋川医療センター、済生会宇都宮病院、済生会前橋病院、前橋赤十字病院、伊勢崎市民病院、深谷赤十字病院、行田総合病院、榛名荘病院、佐久医療センター、埼玉医科大学総合医療センター、富山大学医学部附属病院において専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修カリキュラムの到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識と技術を備えた麻酔科専門医を育成する。特に産科麻酔や心臓麻酔を学ぶために埼玉医科大学総合医療センターおよび富山大学医学部附属病院と連携し、希望者には研修できる体制を整えている。

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。
麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

プログラム運営委員会を毎年開催し、病院間・レジデント間で症例の偏りが生じていないかチェックを行い、プログラム内容を更新する。

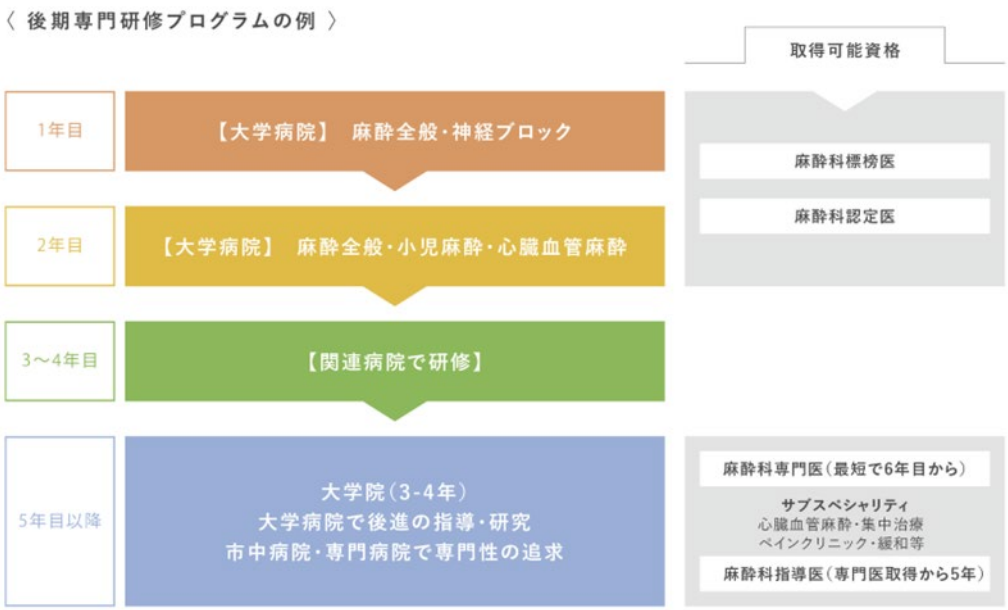
レジデントの希望と適正を考慮し、研修プログラム内容を個々人に合わせることにより、教育的配慮の行き届いたオーダーメイドプログラムを必ず提供する。

●研修の前半 2 年間のうち 1 年間、後半 2 年間のうち 6 ヶ月は、専門研修基幹施設で研修を行う。

●済生会宇都宮病院、群馬県立小児医療センター、前橋赤十字病院、足利赤十字病院、群馬県立心臓血管センター、日赤医療センター、伊勢崎市民病院では、それぞれ最低 6 ヶ月は研修を行うよう努力する。

研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるよう、ローテーションを構築する。

キャリアパスイメージ



4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における 2025 年度合計麻酔科管理症例数：63,532 症例

本研修プログラム全体における総指導医数： 109 人

	合計症例数
小児（6 歳未満）の麻酔	1,276 症例
帝王切開術の麻酔	1,837 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	2,991 症例
胸部外科手術の麻酔	2,779 症例
脳神経外科手術の麻酔	1,777 症例

一部連携施設で指導医の按分のない施設も含んでいます。

① 専門研修基幹施設

群馬大学医学部附属病院（以下、群馬大学）

研修プログラム統括責任者：須藤　貴史

専門研修指導医：齋藤　繁（麻酔、集中治療、ペインクリニック、高気圧酸素治療）

門井　雄司（麻酔）

戸部　賢（麻酔、集中治療、高気圧酸素）

山田　真紀子（麻酔、ペインクリニック、緩和）

三枝　里江（麻酔、ペインクリニック、緩和）

堀内　辰男（麻酔、神経麻酔）

竹前　彰人（麻酔、集中治療、心臓麻酔）

神山　彩（麻酔、心臓麻酔、集中治療）
認定病院番号：36
特徴：麻酔科専門レジデントとして求められるのは麻酔技術と症例のみではない。群馬大学はプログラムの基幹施設として、豊富な麻酔症例、幅広い手技と研究を通じた科学的な麻酔の探求を行いながら、「麻酔を通じた全人的なレジデント育成」を目標としている。各連携施設との連携の中心となって多岐施設にわたり研修を行い、麻酔技術はもちろん、コミュニケーション能力と交渉力を養い、人間としての成長を目指す。
麻酔科管理症例数 5,678 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	80 症例
帝王切開術の麻酔	135 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	201 症例
胸部外科手術の麻酔	231 症例
脳神経外科手術の麻酔	248 症例

② 専門研修連携施設

独立行政法人国立病院機構　高崎総合医療センター

研修実施責任者：麻生　知寿
専門研修指導医：麻生　知寿（麻酔）
岡本　知恵（麻酔）
日野原 宏（麻酔、集中治療）
大川　牧生（麻酔、集中治療）
渋谷　綾子（麻酔、集中治療）
松井　祐介（麻酔、集中治療）
認定病院番号：109
麻酔科管理症例数 4,151 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	28 症例
帝王切開術の麻酔	109 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	115 症例
胸部外科手術の麻酔	268 症例
脳神経外科手術の麻酔	36 症例

桐生厚生総合病院

研修実施責任者：塚越　裕
専門研修指導医：塚越　裕（麻酔）
入内島　伸尚（麻酔、ペインクリニック）
高瀬　友彰（麻酔）
鈴木　敏之（麻酔）
認定病院番号：736
特徴：ペインクリニックの研修可能
麻酔科管理症例数 1.585 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	4 症例
帝王切開術の麻酔	74 症例

心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	35 症例

群馬県立心臓血管センター

研修実施責任者：金本　匡史
専門研修指導医：金本　匡史（心臓麻酔）
黒岩　陽介（心臓麻酔）
認定病院番号：131
特徴：心臓血管外科症例が豊富であること
麻酔科管理症例数：624 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	589 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

群馬県立小児医療センター

研修実施責任者：松本　直樹
専門医：松本　直樹（麻酔、小児麻酔、心臓麻酔）
山崎　聡子（麻酔）
認定病院番号：254
特徴：6 歳未満の小児麻酔と小児心臓外科麻酔の研修が可能
麻酔科管理症例数 831 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	393 症例
帝王切開術の麻酔	71 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	77 症例
胸部外科手術の麻酔	1 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

JCHO 群馬中央病院

研修実施責任者：富岡　昭裕
専門研修指導医：富岡　昭裕（麻酔）
高橋　淳子（麻酔・集中治療）
川崎　雅一　（麻酔）
石川　愛　（麻酔）
認定病院番号：656
特徴：帝王切開症例を豊富に経験できる
麻酔科管理症例数 1,937 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	30 症例

帝王切開術の麻酔	117 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

群馬県立がんセンター

研修実施責任者：福良　治彦
専門研修指導医：福良　治彦（麻酔）
塚越　栄治（麻酔）
南嶋　しづか（麻酔）
認定病院番号：108
特徴：胸部外科手術麻酔に対応可能
麻酔科管理症例数 1,948 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	181 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

館林厚生病院

研修実施責任者：関　慎二郎
専門研修指導医：関　慎二郎（麻酔）
認定病院番号：185
特徴：慢性疼痛外来の担当、高気圧酸素治療の実践
麻酔科管理症例数 1,052 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	86 症例
脳神経外科手術の麻酔	56 症例

公立富岡総合病院

研修実施責任者：澤野　由加梨
専門研修指導医：宮崎　増美（麻酔）
安斎　健（麻酔）
澤野　由加梨（麻酔）
村田　聡美（麻酔）
認定病院番号：869
特徴：多数の症例を安全かつスムーズに行えるように様々な工夫をしている
麻酔科管理症例数 1,759 症例

	本プログラム分

小児（6 歳未満）の麻酔	2 症例
帝王切開術の麻酔	36 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	43 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

公立藤岡総合病院

研修実施責任者：金井　真樹
専門研修指導医：金井　真樹（麻酔）
碓井　正（麻酔）
田口　さゆり（麻酔）
萩原　竜次（麻酔）
高田　亮（麻酔、集中治療）
認定病院番号：430
麻酔科管理症例数 1,854 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	2 症例
帝王切開術の麻酔	49 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	52 症例
脳神経外科手術の麻酔	28 症例

埼玉県立循環器・呼吸器病センター

研修実施責任者：三好　壮太郎
専門研修指導医：三好　壮太郎（麻酔）
大平　幸代（麻酔）
小林　康磨（麻酔）
玄　運官（麻酔）
認定病院番号：958
特徴：心臓血管外科症例及び呼吸器外科症例の集中実地研修が可能。
麻酔科管理症例数 970 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	530 症例
胸部外科手術の麻酔	182 症例
脳神経外科手術の麻酔	208 症例

渋川医療センター

研修実施責任者：関本　研一　（麻酔）
専門研修指導医：関本　研一（麻酔）
内橋　慶隆（麻酔）
福島　祐樹（麻酔）

認定病院番号：1835
特徴：多数の症例を安全かつスムーズに行えるように様々な工夫をしている
麻酔科管理症例数 1,571 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	191 症例
脳神経外科手術の麻酔	13 症例

<u>済生会宇都宮病院</u>
研修実施責任者：植野　正之
専門研修指導医：植野　正之（麻酔）
長谷川　義治（麻酔・集中治療・救急医学）
伍井　由夏　（麻酔、心臓麻酔）
松岡　宏晃（麻酔・集中治療）
平崎　裕二（麻酔、心臓麻酔）
鯉沼　俊貴　（麻酔、集中治療、救急）
認定病院番号：86
特徴：過去 6 年以上にわたる毎年複数名の JB-POT 合格者。心臓血管手術が多く、指導体制も充実。
麻酔科管理症例数 4,595 症例

	全症例数
小児（6 歳未満）の麻酔	30 症例
帝王切開術の麻酔	4 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	250 症例
胸部外科手術の麻酔	141 症例
脳神経外科手術の麻酔	65 症例

プログラム基幹病院

<u>足利赤十字病院</u>
研修実施責任者：高橋　健一郎
専門研修指導医：高橋　健一郎（麻酔）
星野　豊（麻酔）
半谷　圭一郎（麻酔）
認定病院番号：98
特徴：小児症例以外の外科系各診療科が揃っており、緊急手術も多い。
麻酔科管理症例数 3,550 症例

	全症例数
小児（6 歳未満）の麻酔	13 症例
帝王切開術の麻酔	132 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	176 症例
胸部外科手術の麻酔	103 症例

脳神経外科手術の麻酔	96 症例

日本赤十字社医療センター

研修プログラム統括責任者：諏訪　潤子（麻酔）
専門研修指導医：諏訪　潤子（麻酔）
細川　麻衣子（麻酔、集中治療）
浅野　哲（麻酔、産科麻酔）
齋藤　豊（集中治療、麻酔）
大塚　尚実（集中治療、救急、麻酔）
林　南穂子（麻酔、集中治療）
認定病院番号：76
特徴：がん診療、小児・周産期医療、救命救急及び災害救護を担う、地域の中核施設。十分な麻酔症例と集中治療症例を研鑽することができます。分娩時の疼痛緩和のための硬膜外麻酔も数多く行っています。
麻酔科管理症例数 4,479 症例

	全症例数
小児（6 歳未満）の麻酔	222 症例
帝王切開術の麻酔	146 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	115 症例
胸部外科手術の麻酔	139 症例
脳神経外科手術の麻酔	194 症例

プログラム基幹病院

済生会前橋病院

研修実施責任者：中島　邦枝
専門研修指導医：中島　邦枝　（麻酔、ペインクリニック）
高橋　恭子（麻酔）
認定病院番号：1193
麻酔科管理症例数 1,491 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	11 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	66 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

前橋赤十字病院

研修実施責任者： 柴田　正幸
専門研修指導医： 伊佐　之孝（麻酔）
柴田　正幸　（麻酔）
齋藤　博之　（麻酔、心臓麻酔）
認定病院番号：124
特徴：地域医療支援病院、がん診療連携拠点病院、周産期母子医療センター、救命救急センター、災害拠点病院

麻酔科管理症例数 4,793 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	145 症例
帝王切開術の麻酔	166 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	175 症例
胸部外科手術の麻酔	303 症例
脳神経外科手術の麻酔	159 症例

他に 3 つの研修プログラムと連携
プログラム基幹病院

<u>伊勢崎市民病院</u>
研修実施責任者：廣木　忠直
専門研修指導医：廣木　忠直（麻酔、心臓麻酔、ペインクリニック）
日尾　早香（麻酔、集中治療）
藤井　理沙（麻酔）
室岡　由紀恵（麻酔、集中治療）
認定病院番号：227
特徴：麻酔、ペインクリニックの研修が可能である。
　　豊富で偏りのない症例および麻酔手技が経験できる。
麻酔科管理症例数 3,942 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	28 症例
帝王切開術の麻酔	74 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	253 症例
胸部外科手術の麻酔	162 症例
脳神経外科手術の麻酔	24 症例

<u>深谷赤十字病院</u>
研修実施責任者：岡田　貴禎
専門研修指導医：増茂　仁（麻酔、ペインクリニック、緩和）
岡田　貴禎（麻酔）
認定病院番号：299
特徴：地域医療支援病院、がん診療拠点病院、ペインクリニック学会指定研修施設
麻酔科管理症例数 2,860 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	36 症例
帝王切開術の麻酔	107 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	52 症例
胸部外科手術の麻酔	111 症例
脳神経外科手術の麻酔	195 症例

他にひとつのプログラムと連携

榛名荘病院
研修実施責任者：佐々木　正行
専門研修指導医：佐々木　正行（麻酔）
認定病院番号：1220
特徴：地域における脊椎外科手術の中心施設
麻酔科管理症例数 207 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	0 症例
脳神経外科手術の麻酔	0 症例

行田総合病院
研修実施責任者：柳澤　晃広
専門研修指導医：岡本　知紀（麻酔）
柳澤　晃広　（麻酔）
河内　力　（麻酔）
飯田　章博　（麻酔）
認定病院番号：1164
特徴：地域医療支援病院、災害拠点病院
麻酔科管理症例数 1,908 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	0 症例
帝王切開術の麻酔	0 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0 症例
胸部外科手術の麻酔	4 症例
脳神経外科手術の麻酔	72 症例

佐久総合病院 佐久医療センター
研修実施責任者：清水　賢一
専門研修指導医：清水　賢一（麻酔）
萩原　一昭（麻酔）
川真田　樹人（麻酔）
後藤　真也（麻酔）
室伏　真里（麻酔）
山添　泰佳（麻酔）
認定病院番号：1682
特徴：地域の中核総合病院。重症例、緊急症例を含む様々な術式と幅広い年齢層の患者が多く集まり、さまざまな手術の麻酔を幅広く経験することができる．ペインクリニック、集中治療の研修が可能。
麻酔科管理症例数 4,658 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	80 症例

帝王切開術の麻酔	144 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	293 症例
胸部外科手術の麻酔	227 症例
脳神経外科手術の麻酔	97 症例

プログラム基幹病院

埼玉医科大学総合医療センター

研修実施責任者：鈴木　俊成
専門研修指導医：小山　薫（麻酔、集中治療）
照井　克生（麻酔、産科麻酔）
小幡　英章（麻酔、　ペインクリニック）
鈴木　俊成（麻酔、区域麻酔）
田村　和美（麻酔、産科麻酔）
佐々木　麻美子（麻酔、　小児麻酔）
山家　陽児（麻酔、ペインクリニック）
加藤　崇央（麻酔、集中治療）
田澤　和雅（麻酔）
加藤　梓（麻酔、産科麻酔）
北岡　良樹（麻酔、　心臓麻酔）
佐々木　華子（麻酔）
金子　恒樹（麻酔、産科麻酔）
吉田　由惟（麻酔、産科麻酔)
伊野田　絢子（麻酔）
金子　友美（麻酔）
黒川　右基（麻酔、集中治療）
坂本　尚子（麻酔、集中治療）
岡田　啓（麻酔、集中治療）
岩山　香坂（麻酔、産科麻酔）
原口　崇（麻酔、産科麻酔）
日本麻酔科学会麻酔科認定病院番号：390
特徴：県内唯一の総合周産期母子医療センターがあり、高度救急救命センターにはドクターヘリが設置されている。急性期医療に特化した麻酔管理のみならず、独立診療体制の産科麻酔、ペイン、集中治療のローテーションが可能で、手術室麻酔のみならずオールラウンドな麻酔科医を目指すことができる。
麻酔科管理症例数 7,053 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	172 症例
帝王切開術の麻酔	473 症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	165 症例
胸部外科手術の麻酔	288 症例
脳神経外科手術の麻酔	351 症例

プログラム基幹病院

富山大学附属病院

研修実施責任者：高澤　知規
専門研修指導医：高澤　知規　（麻酔、集中治療）
村花　準一　（麻酔）
佐々木　利佳　（麻酔）
坂本　菜摘　（麻酔）
武部　真理子（麻酔）
伊東　久勝（麻酔）
川上　正晃（麻酔）
久保田　良平（麻酔）
日比　大亮（麻酔）
日本麻酔科学会麻酔科認定病院番号：191
麻酔科管理症例数 症例

	本プログラム分
小児（6 歳未満）の麻酔	症例
帝王切開術の麻酔	症例
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	症例
胸部外科手術の麻酔	症例
脳神経外科手術の麻酔	症例

プログラム基幹病院

5.　募集定員

20 名

6.　専攻医の採用と問い合わせ先

採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2026 年 9 月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、群馬大学医学部附属病院　麻酔・集中治療科 website、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。
群馬大学医学部附属病院　麻酔・集中治療科　講師　堀内辰男
前橋市昭和町三丁目 39-15
TEL（027）220-8454
e-mail:　masui.ikaicho.horiuchi@gmail.com
Website:　https://anesthesiology.med.gunma-u.ac.jp/

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4 年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の 4 つの資質を修得した医師となる。
１）十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能

２）刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
３）医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

8. 専門研修方法

別途資料麻酔科専攻医研修マニュアルに定められた１）臨床現場での学習、２）臨床現場を離れた学習、３）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA-PS1～2 の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導の元、安全に周術期管理を行うことができると共に、年度の後半では ASA-PS3 以上の患者の周術期管理や ASA-PS1-2 の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。同時に胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などの特殊症例について経験する。専門研修 1 年目に 2 か月間程度集中治療室での研修を行い、重症患者管理や術後管理を学べるような体制にしている。

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、通常の定時予定手術患者の周術期管理はもちろん、全身状態の悪い ASA-PS3 以上の患者の緊急手術の周術期管理を、心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などの特殊症例も含めて指導医の指導のもと、安全に行うことができる。大学の専攻医数により、連携施設での特殊麻酔症例を研修できるようにしている。(小児麻酔、心臓血管麻酔など)

専門研修 3 年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術など、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。また、ペインクリニック、集中治療、

救急医療など関連領域の臨床に携わり、指導医の指導のもと、基本的な知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。外科系各科との協議やコンサルタントにも積極的に参加し、周術期管理の中心的な役割を担う基本的なコミュニケーション技能を経験する。さらに、関連領域の臨床現場でも更なる知識や技能を習得する。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

●研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。

●専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

●年度ごとに多職種（手術部看護師長、集中治療部看護師長、臨床工学技士長、手術部担当薬剤師）による専攻医の評価について、文書で研修管理委員会に報告し、次年度以降の専攻医への指導の参考とする。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修 4 年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

●専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。

●出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる。

●妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して 2 年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して 2 年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
●2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コース等を卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断
●専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
●専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動
●専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 地域医療への対応
本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての前橋赤十字病院、済生会宇都宮病院、足利赤十字病院、伊勢崎市民病院、高崎総合医療センター、桐生厚生総合病院、群馬県立心臓血管センター、群馬県立小児医療センター、群馬中央病院、群馬県立がんセンター、館林厚生病院、公立富岡総合病院、公立藤岡総合病院、埼玉県立循環器・呼吸器病センターなど幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。
当プログラムにおいて研修中の指導体制は充分であるが、専攻医が指導体制が充分でないと感じられた場合には、専攻医は研修プログラム統括責任者に対して直接、文書、電子媒体などの手段で報告することが可能であり、それに応じて研修プログラム統括責任者および管理委員会は、研修施設及びコースの変更、研修連携病院からの専門研修指導医の補充、専門研修指導医研修等を検討する。